

特別会計はすべて黒字決算に

地方自治体の会計には、一般会計とは別に、特定の収入で支出を賄う「特別会計」があります。本市には、国民健康保険や介護保険、下水道事業など10の特別会計があり、それぞれの会計で決算が行われ、全会計で黒字決算となりました。

国民健康保険特別会計（事業勘定）では、税収（※）や交付金などの減収が生じたため、財政調整基金の取り崩し（年度末残高11万円）と、一般会計から3億2681万円の法定外繰り入れを行い黒字を達成しました。
※23度に収支均衡を図るため国保税の引き上げを実施

◆特別会計決算額					(単位：万円)	
会計名		歳入決算額	歳出決算額	22年度末 地方債残高		
国民健康保険	事業勘定	124 億 9,515	123 億 3,089	—		
	直診勘定	11 億 2,780	11 億 488	13 億 9,995		
老人保健		559	559	—		
後期高齢者医療		9 億 9,356	9 億 9,122	—		
介護保険	保険事業勘定	86 億 9,681	86 億 9,065	—		
	サービス事業勘定	3 億 5,108	3 億 5,106	8 億 11		
簡易水道事業		14 億 9,887	13 億 5,827	85 億 1,590		
下水道事業		29 億 879	28 億 7,485	254 億 1,428		
農業集落排水事業		13 億 3,690	13 億 2,227	150 億 7,807		
浄化槽事業		3 億 4,363	3 億 2,948	9 億 8,322		
バス事業		9,108	9,108	951		
米里財産区		384	260	—		

厳しい企業経営を強られる中、3公営企業で黒字を達成

地方自治体が経営する地方公営企業は、一般会計から独立した「公営企業」として運営しています。本市には4つの公営企業があり、その決算状況についてお知らせします。

【水道事業会計】

水道事業では、水の安定供給

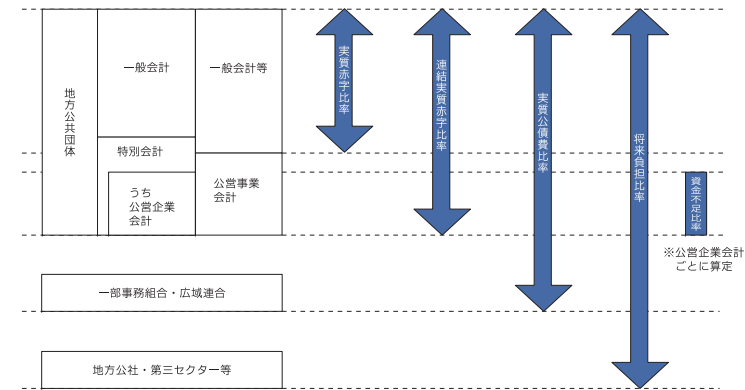
◆企業会計決算額・地方債残高				(単位：万円)
会計名	項目		22 年度	21 年度
水道事業	収益の収支	収益	19 億 1,282	19 億 3,335
		費用	18 億 6,080	18 億 7,599
		純利益	5,202	5,736
	資本の収支	収入	5 億 8,166	6 億 6,435
		支出	12 億 9,856	15 億 1,788
		不足分	7 億 4,950	8 億 5,353
	地方債残高		96 億 2,395	95 億 9,164
国民宿舎 サンホテル 衣川荘	収益の収支	収益	1 億 8,248	1 億 8,101
		費用	2 億 3,227	2 億 1,455
		純利益	▲ 4,979	▲ 3,354
	資本の収支	収入	900	0
		支出	1,042	380
		不足分	142	380
	地方債残高			
総合水沢病院	収益の収支	収益	29 億 2,047	27 億 5,984
		費用	29 億 1,961	29 億 1,783
		純利益	86	▲ 1 億 5,799
	資本の収支	収入	6 億 2,371	3 億 2,921
		支出	6 億 2,371	3 億 2,921
		不足分	0	0
	地方債残高		19 億 7,518	25 億 6,168
まごころ病院	収益の収支	収益	10 億 3,791	10 億 4,870
		費用	10 億 2,904	10 億 4,770
		純利益	887	100
	資本の収支	収入	2,487	2,114
		支出	9,762	1 億 4,042
		不足分	7,275	1 億 1,928
	地方債残高		9 億 123	9 億 7,957

※水道事業の資本的収支の不足分は、翌年度繰越し財源の2,360万円を除く
資本的収支の不足分は、過年度分の留保資金などから補てん

財政健全化比率は早期健全化基準を下回る

財政健全化法の施行に伴い、各年度決算に基づき算定した健全化判断比率及び資金不足比率をお知らせします。この財政指標は、会計などの範囲から4つに分類されています。この内容から将来にわたる負担も判断基準に加えられまし

健全化判断比率などの対象



◆ 22 年度決算に基づく健全化判断比率							(単位：％)	
項目名	実質赤字比率	連結質赤字比率	実質公債費比率		将来負担比率			
			22 年度	21 年度	22 年度	21 年度		
健全化判断比率	—	—	19.9	21.8	179.2	205.9		
早期健全化基準	11.54	16.54	25.0		350.0			
財政再生基準	20.0	40.0	35.0					

※赤字額がないため、実質赤字比率と連結実質赤字比率は「—」と表示

た。
本市の健全化判断比率及び資金不足比率は、いずれも早期健全化基準、経営健全化基準以下の数値となりました。しかし、実質公債費比率と将来負担比率については依然として高い数値となっていることから、更に公債費などの縮減を図っていく必要があります。

- 実質赤字比率…普通会計（奥州市は一般会計とバス事業特別会計）の赤字の度合いを表す指標
- 連結実質赤字比率…一般会計や企業会計など地方自治体の会計全体を合算した赤字の度合いを表す指標
- 実質公債費比率…地方税や普通交付税などのように用途が特定されず、毎年度経常的に収入されるお金のうち、公債費に充てられたものの割合。この比率が18%を超えると地方債の発行に県知事の許可が必要となる

- 将来負担比率…一部事務組合や第三セクターも含め全ての会計で将来負担することになる実質的な負債を表す指標
- 収益的収支…公営企業の1年間の営業活動に係る収入と支出
- 資本的収支…公営企業の将来の営業活動に備えて行う設備投資に係る収入と支出

給のために、未給水区域の解消に向け、施設整備や計画的な施設の更新を行いました。財政の健全化などを目的として料金等収納業務、施設維持管理業務の民間委託を実施しました。

【国民宿舎等事業会計】

サンホテル衣川荘では、経費節減や観光客の誘致を積極的に進めたものの、景気低迷などの影響で宿泊者が減少。

4期連続での赤字決算となりました。平泉の世界文化遺産登録により、滞在型観光への期待が高まります。旅行者への働き掛けや、県南地域、宮城県北地域の営業を強化し、さらなる経営の健全化に向けて努力します。

【総合水沢病院事業会計】

水沢病院では、実施2年目に当たる「市立病院改革プラン」に基づいた病院運営を目

【まごころ病院事業会計】

まごころ病院では、医師7人、歯科医師2人の診療体制で運営することができました。地域医療研修として県立胆沢病院などから、のべ10カ月の研修医を受け入れました。また、MRIなどの医療機器整備も行い、医療提供機能を充実させながら経営改善を行いました。

【用語解説】

- 義務的経費…地方自治体の歳出のうち、支出が義務付けられており任意に節減できない経費
- 投資的経費…道路や学校建設、災害復旧費など、資本形成を目的として支出される経費
- 市債…公共施設の整備や財源不足を補うため、長期に借入れるお金
- その他経費…他団体等への補助金や特別会計への繰出金、物件費、積立金など、義務的経費及び投資的経費以外の経費

- 繰出金…一般会計から特別会計に支出したお金
- 資金不足比率…特別会計と公営企業会計の赤字の度合いを表す指標
- 早期健全化基準…4指標それぞれに設定された基準。基準を超えた場合は財政健全化計画の策定などが義務づけられる
- 財政再生基準…上記と同様に設定された基準。基準を超えた場合は国の管理指導のもとで財政再生を目指すこととなる